



◆ 平成21年度総合型地域スポーツクラブ

「育成指定クラブ」から「創設支援クラブ」へ

—t o t o事業（日本スポーツ振興センター）へシフト—



スポーツ振興くじ助成事業

国の「スポーツ振興計画」をもとに始められた総合型クラブの育成事業ですが、平成14年からスポーツ振興くじ助成によるクラブ創設支援事業、活動支援事業が行われてきました。平成16年度に文部科学省委託事業を展開してきましたが、今年度からこれまでのノウハウを生かし、民間のスポーツ団体（日本体育協会）を中心になって地域住民の主体的なクラブ設立へ向けた取り組みを支援していくことになりました。従って、クラブ育成の財源提供がt o t o振興くじを運営している「日本スポーツ振興センター」（N A A S H）になり、そこから日本体育協会が運用を請け負っていることになります。それにより、N A A S Hの経理基準に基づいた執行となり、昨年度までとは運用・経理処理の面で多少の違いがあります。

t o t oになって変わったことは先のクラブ担当者会議で示したとおりで、中間報告を前に再度確認してください。諸謝金、旅費、賃金等で大きな変更が見られます、特に、全ての印刷物、教室、大会、会議、イベントの記録写真に、t o t oのロゴマークと助成事業である旨の表示が対象事業の基準になります。対象事業の記録写真には必ずロゴマークと助成事業の一文が写っているように工夫してください。

また、委託金運用にあたっては、決算報告を見通しての綿密な計画・執行と証拠文書の確保をお願いします。特に、提出書類は期日厳守です。

今年度新規クラブの紹介

◆ 鹿追町総合型地域スポーツクラブ

組織メンバーが多彩・多数で地元中心のスタッフ。町の体育連盟、体育指導委員、教委が中心となって周到な準備の上、設立準備委員会をたちあげました。設立総会へ向けての構想、クラブ運営計画も大筋固まっていて、クラブのパワーを感じました。皆さんの力で、地域の活性化につながるような活動を期待しています。現地ヒアリングに12名のスタッフが集まってくれました。



◆ おとふけ総合型スポーツクラブ十勝サーカス

クラブマネージャーを中心に支援グループで事業を開いています。

クラブエンブレムも決まり、遙か将来までを見通したグランドデザインもでき、夢が広がる感じです。クラブの広報パンフに「総合型創設支援事業・・という字を見ただけで引いてしまいそうになりますが、大変なのは書類の作成くらいで、後はワイワイガヤガヤ楽しくやっていけばいいだけ」とありました。正に理念に通ず！です。

おとふけ
サーカス

◆ 上記のほかに、大空町と中川町に総合型クラブ設立準備委員会が立ち上っています。次号で紹介します。

創設支援クラブ担当者会議開催!

= 6月5日(金)・6日(土) = 於: 北海道立総合体育センター

講 演

「総合型地域スポーツクラブの現状と課題」

講師: 黒須 充 氏 (福島大学教授)



総合型クラブは、日本のスポーツシステムを変える起爆剤としてスタートしたが、地域住民がスポーツを楽しめる環境になっているかという観点で現状を見ると、理解・認知度・継続性といった点で14年間の課題が生じている。その反省の上に立って、「クラブを上手に運営するための10の法則」を示されました。

①先ずは理念の確立 ②機能的な人材を集め ③拠点施設の確保 ④財源確保 (受益者負担) ⑤魅力的な種目・プログラム ⑥情報収集力 ⑦リスクマネジメント ⑧協働の姿勢 ⑨法人化 ⑩必ず評価を!といった視点を押さえた取り組みで発展するクラブを目指そうという趣旨でした。

実践発表Ⅰ

「遊ゆうクラブ」

(新篠津村)

会長 松永 厚美さん

松永さんからクラブの経緯を中心に設立から現在に至るまでの流れの中で課題解決の取り組みが話されました。体育指導員としての視点から子供たちの現状を何とかしたいという願いがクラブのミッションになり、賛同者とともに手作りで立ち上げたクラブとのことでした。

<松永さんのメッセージから>

- ・行政に頼っていては長続きしない!
- ・無理は禁物。身の丈にあった活動を。
- ・自分達が出来る活動を。
- ・興味が湧けば相手から寄ってくる。



実践発表Ⅱ

NI-SPO (にいかっぷスポーツクラブ)

(新冠町)

クラブマネジャー 工藤 匡さん

「総合型クラブ作りのノウハウ」と題し、スポーツ少年団の現状と課題、学校統廃合による隘路からスポ少を主体とした総合型クラブを立ち上げた経緯、少子高齢化、行政サービスの限界から「協働」の思想を推進する足がかりとして総合型クラブの活用が有効であることなどが話されました。

ジュニアSC活動として陸上、乗馬、カヌー、スキー、バイラバイラ等の体験教室やスノーフェスティバルといった多彩な活動を行い、新冠の子供たちの70%の参加を得ている活動の様子が紹介されました。

育成支援チーム設置事業が始まりました。

「はぼろスポーツクラブ: ウオーキング教室」 於 羽幌町総合体育館 6月27日(土) 開催

ライフスタイル研究所主宰の布上恭子講師による姿勢や体の動かし方の話しとストレッチを組み合わせた解説で始められたウォーキング講習会。参加者は年配者、女性が中心でからだほぐしからストックを使ったウォーキングで正しい歩き方を実習しました。

参加者からは「今まで間違った動きをしていた」「何か体の動きが大きくなつた」「意識して歩くことで姿勢がよくなつた」「考えながら歩くことがポイントね」という声が聞かれました。まさしく生涯学習そのものと言った雰囲気でした。

現在、はぼろクラブの他4クラブから申請が出ています。残り枠がひとつ
ですが、申請順ですので希望のクラブは早めにご連絡をください。



北海道ネット事業

(北海道ネット=都道府県総合型クラブ連絡協議会)

6月28日(日)午前 於：北海道立総合体育センター

総合型クラブの定着・発展のため、設立した総合型クラブ関係者を対象にクラブ運営に係わる情報交換・協議や交流事業を目的に設置されたものですが、創設支援クラブの方も参加できます。創設支援クラブ経理処理要項でも各クラブ3名まで旅費対象になっています。

ネット事業はクラブ相互の連携、クラブ関係者の親睦を図り、地域スポーツの振興と生涯スポーツの実現に寄与することをねらい、次の事業を計画しています。

- ① 情報交換会と交流会の開催 ② 勉強会の開催
- ③ 研修会・講習会の開催
- ④ 日体協主催「クラブミーティング」との連携

[連絡先] TEL 0137(62)2141 八雲町総合体育館 足立直人



今回の事業は「デジタルスポーツ射撃実技研修会」でした。

射撃協会の土橋氏から歴史のお話しがありましたが、射撃の競技歴は古く、第1回オリンピックアテネ大会から行われているそうです。その後、八雲町での取り組みや今後の展望等の話があり、実技体験に入りました。見るとやるのでは大違いで、身体能力の差が如実に出ていました。特別参加で、第6回全日本デジタルスポーツシューティング選手権大会で見事優勝した奥田有香さん（現札幌光星高校1年）が見事な射撃を披露してくれ、参加者から歓声と拍手が起きました。奥田さんの今後の活躍を期待したいと思います。



事例発表「クラブの円滑な運営を目指して」

標津スポーツクラブ「すぽっと」

副会長 土井 裕 氏

標津町では、綿密な調査・分析のもとモデル地区を指定し、創設支援事業を申請した。助成をフル活用し、講演会等多彩な事業を展開して総合型クラブの認知度を高め、住民への理解に努めた。更に、手始めとして小中学校、スポ少との連携並びに施設管理受託も視野に準備を進めてきたが、結果的に設立を断念することになった。その要因として

- ① 住民の現状満足度が高く、関心が薄い。
- ② 運動環境が潤沢で、無料であること。
- ③ キーマン、専門的指導者が不在。

が挙げられた。

地域住民からのボトムアップ的なニーズを醸成することが重要であり、それらの反省をもとに平成19年標津町市街地区に新たなクラブを設立した。

くつまづきの事例から学ぶ趣旨のお話があり、貴重なデータになりました。>

—クラブミーティング2009—

6月28日(日)午後 於：北海道立総合体育センター

(財)日本体育協会の主催で行われ、根本光憲課長から挨拶があり、各クラブの理念に基づく運営の大切さを強調していました。その後、円滑なクラブ運営に向け、「つまづきから学ぶ」事例発表・紹介がありました。

事例紹介とフロアディスカッション 「クラブ運営のつまづきから学ぶ」

今回の企画は、創設支援クラブ担当者により身近な話題となるよう「運営のつまづき」がテーマでした。伊端コーディネーターの進行で、発表者の小澤氏 (Bay Walk Communityはこだて)・土岐氏 (大楽毛げんきスポーツクラブ)・三好氏 (eスポーツクラブ)、助言者の地方企画班員4方に加えフロアーからも質問・意見が出され、大変有意義なディスカッションになりました。

地域実態にあった理念のもと、人、もの、金をどう運用していくかがポイントだと思います。「組織は人、集客は中身」がキーワードになります。そして、最低限の運用資金が必要ということが結びでした。

その後、日体協から経理説明がありました。

「創設支援事業 関係書類」をクラブ全員で共有しましょう！ 日体協HPからダウンロードできます！

アドバイザー道外視察から

杉並区 向陽スポーツ文化クラブ



下高井戸の住宅街にあり、テニス会員の多いクラブです。会員数1,150名と大所帯ですが、向陽中学校区のみの開放事業がベースです。スポーツ系が19種目、文化系が16種類ありました。

感心したのは、クラブハウスが立派なことです。バレエレッスンもできるスタジオやサロン的な部屋もありました。ハウスは2代目で現在の建物はtoto助成で建てられました。敷地は区からの借用で、園芸栽培用の庭もある、東京としては贅沢な敷地面積を有するクラブです。中学校とは相互協力を前提に円滑に連携がとれているようです。

渋谷区 ほんまちクラブ

下町的な雰囲気で、アットホームなクラブでした。小学校の一室をクラブ事務局として借り、小中学校の体育館を活動場所にしています。クラブスタッフの多くが自営業者で、地元を愛し、子供の育成に強い関心を持っているようでした。区のバザーで資金を貯め、手弁当で運営にあたっています。運営しながら自分達もスポーツや文化活動を楽しんでいる印象を受けました。特に、子供たちの運動能力が高まり、中学校で部活の中心メンバーになっていることが自慢であり、喜びのようです。

スポーツ吹き矢を体験しました！

5メートルの距離は容易ですが、10メートルとなると結構肺活量を要しますし、的も小さくなります。プラスチックの矢が的に突き刺さる快感は癖になりそう！

比較的狭い部屋で、年齢に関係なく、安価で手軽にできるスポーツとしていかがでしょう。



道体協の今後の主な予定

- 中間報告への準備を！11月10日（火）締め切りです。
- 10月18日（金）創設支援クラブ担当者会議（午前～）
- 9月から2回目のヒアリングがあります。

創設支援クラブ現地ヒアリングから

ークラブ紹介第1弾ー（第2弾は11号で）

7月末までに、1回目の現地ヒアリングが終わりました。忙しい中、時間を割いていただいたクラブ関係者の皆様、有り難うございました。

＜順不同＞

- * 当別SC - 地域に根ざした確かな活動を展開。
- * 銀山SC - 運営組織が盤石。将来展望も明確。
- * 小樽西部SC - 市教委との連携が整い、円滑運営。
- * 久保内SC - 地域のまとまりが強く、全員運営。
- * 洞爺湖SC - クラブづくりへ一丸となって取組。
- * 豊浦大和SC - 大和地区活動活発。広がりに期待。
- * 登別SC - 地域密着型のクラブづくりを目指す。
- * 根室SC - 認知度アップ、後継人材育成中。
- * 浜中SC - 活動支援を視野に全町的クラブへ。
- * 豊頃SC - 全町組織をベースに一気に設立へ。
- * 幕別札内SC - 活動支援を視野に挑戦的な運営。
- * 足寄芽登SC - 地域後継者の手で堅実活動中。
- * 沼田SC - 潤沢な施設と指導者陣、盤石な運営。
- * 京極SC - スポ少を元に保護者・地域へ拡大中。
- * 蘭越SC - 設立へ向け邁進中。自主運営体制化へ。
- * ニセコ東部SC - 地域小学校を中心に地区連携良好。

**みなさまの
安全・安心をサポートする！**
小さな掛金・大きな補償
スポーツ安全保険

傷害保険 賠償責任保険 共済見舞金

財団法人 スポーツ安全協会北海道支部
TEL & FAX : 011(820)1709

20年は多くの総合型クラブの皆さんにご加入いただきありがとうございます。当協会は、活動される皆様がご愛用しやすいスポーツ安全保険を目指し、今後とも内容の改善・充実に取組みます。総合型クラブの一層の充実、発展を願いつつ、スポーツ安全保険の更なるご利用をお待ちしております。
(佐藤卓也事務局長)

総合型クラブ育成グループから

渡邊清・中沢昭洋アドバイザーの後任として加藤保、工藤誠が就任しました。

白井アドバイザーを中心に、川端事務局員と4名でクラブの皆さんのお手伝いに努めたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



連絡先 TEL(011)820-1707(総合型クラブ育成グループ)
E-mail : sougougata@hokkaido-sports.or.jp